

■製品のリサイクル技術の開発 材料 設計 モノづくり 回収・再生

自動車のライフサイクル全体を考え、リサイクルしやすい製品や材料の開発・設計、廃材のリサイクル技術の開発を推進しています。

ELV※1部品リサイクルに向けた技術開発

重点項目	取り組み方策
新規リサイクル	・複合素材の分離技術 ・新規再生処理技術(高品質マテリアルリサイクル)
リサイクル材の車両搭載	・ELV部品の再生処理技術 ・リサイクル材用途開発
リサイクルしやすい製品設計	・解体しやすい製品設計 ・リサイクルしやすい素材、構成への変更

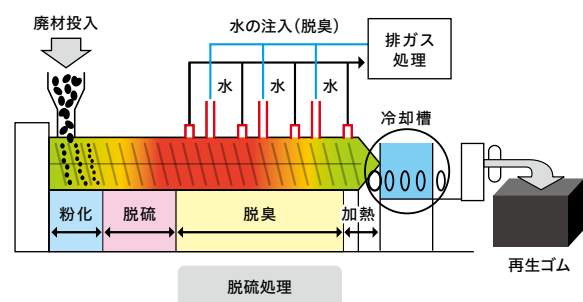
※1 使用済車両(End of Life Vehicle)

事例

2030年目標の達成に向け、ゴムのリサイクル工程を本格稼働 回収・再生

2050年のカーボンニュートラル実現に向け、2030年までに廃棄物50%削減(2012年度比)を目指し、2021年4月に各種ウェザーストリップ製品のリサイクル工程を専用棟に集約しました。当社の独自技術によって廃棄ゴムを原材料に戻し新たな製品に活用することで、約600tの廃棄物低減効果を見込むほか、原材料の輸送や廃棄物焼却時のCO₂低減効果も見込んでいます。また、自社での活用にとどまらず、再生ゴムを他社に販売するなど、業界全体での環境負荷低減の取り組みにも貢献していきたいと考えています。

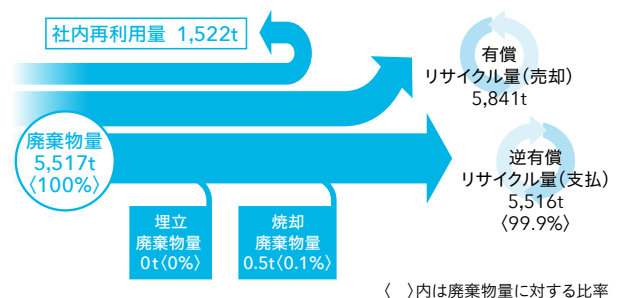
ウェザーストリップ製品のリサイクル工程



■生産段階での廃棄物の低減 モノづくり 回収・再生

生産段階における廃棄物の低減を図るため、発生源対策とリサイクル活動を推進していますが、TG2050環境チャレンジの廃棄物極小化に向け、工場・生産技術・材料技術・製品設計部門による「廃棄物低減プロジェクト」を2018年に発足させ、源流対策やリサイクル活動を推進しています。各事業所では、現地・現物による低減アイテムを発掘するための「もったいない点検」を実施し、低減活動を促進しています。また国内外グループ会社に低減事例を共有し、グループ全体で廃棄物低減を推進しています。

廃棄物発生量・処理状況(2021年度実績) [単体]



()内は廃棄物量に対する比率

■物流段階の梱包材の低減 回収・再生

製品輸送時に使用する梱包材については、通い箱の洗浄回数を増やし清潔に保つことで、汚れを防ぐために使用する梱包材を低減しています。さらに、製品の品質維持と梱

包材の使用量低減とのバランスを考慮しながら、通い箱への蓋付けなどによる梱包材の低減も進めています。